

福島第一原子力発電所現地確認報告書

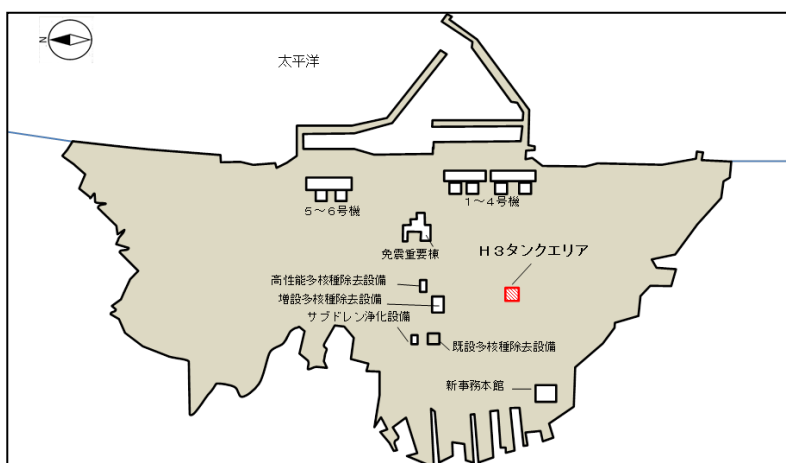
- 1 確認日
令和元年11月20日（水）
- 2 確認箇所
地下水バイパス一時貯留タンクエリア（H3タンクエリア）
- 3 確認項目
地下水バイパス一時貯留タンクエリアの管理状況

4 確認結果の概要

前回（10月21日）、H3タンクエリア（図1）にある地下水バイパス一時貯留タンクエリア（写真1）の現況を確認した際に、移送配管の一部に保温材が剥離して内部のポリエチレン管が露出している箇所や配管サポートが外れている箇所が見受けられるなど管理が十分ではない点及びタンク側板に塗装の剥離や錆の発生が見られたことから、その後の対応状況等を確認した。

- ・移送配管の保温材が剥離して内部のポリエチレン管が露出していた箇所は粘着テープで保温材を補修する措置がとられていた（写真2）。また、確認した範囲では保温材内部のポリエチレン管が露出している箇所はなかった。
- ・配管サポートが外れていた箇所はサポートをボルトで固定する措置がとられていた（写真3）。また、確認した範囲ではサポートが外れている箇所はなかった。
- ・前回同様、一部配管に保温材の劣化や堰内への土砂堆積が見られたが（写真4）、東京電力によると、今後、保温材が劣化し損傷した箇所は現場パトロールにより随時補修するとともに堰内の土砂等の清掃も随時計画していくとのことであった。

また、一時貯留タンクは外面塗装の剥離や錆の発生が見られるが、タンク点検により、内面の止水処理状況等に異常はなくタンクの健全性が確保されていることを確認しているとのことであり、タンクの外面塗装を計画しているとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



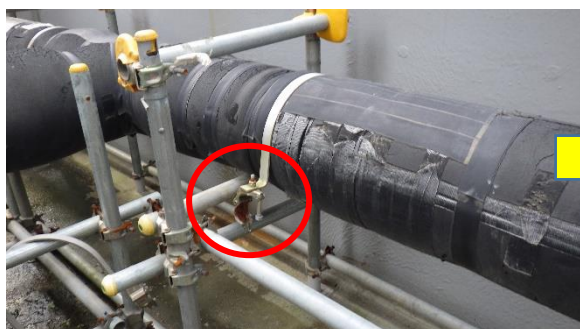
(写真1)
地下水バイパス一時貯留タンクエリアの状況 (南東側から撮影)



(写真2-1) 前回(10月21日)撮影



(写真2-2) 今回撮影



(写真3-1) 前回(10月21日)撮影



(写真3-2) 今回撮影



(写真4-1)
配管保温材の状況



(写真4-2)
堰内の土砂等堆積状況の例①



(写真4-3)
堰内の土砂等堆積状況の例②

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。